

卒業論文の一例

中国古典文学では、先秦から清代までの作品が主な対象となり、日本作品との比較考察を行う学生もいます。学生は自らの興味関心に従って題材を探し、先行研究を調べ、主題となる問題を設定し、論文執筆に打ち込みます。

もちろん簡単には完成しませんが、苦労を重ねた末に完成した卒論を手にした学生たちは、自然と「このテーマを選んで、懸命に取り組めて、本当に良かった」という気持ちになるようです。

その一例として、2023年度の成果の一部を紹介します。

- 陶淵明「勸農」詩考
- 志怪作品における僧の役割
- 王令詩「哭詩六章」の研究
- 狐の異類婚姻譚から見る任氏伝の稀少性
- 金瓶梅から読み解く女性の世界
～潘金蓮を中心に～
- 『聊斎志異』にみる人間と狐の共生
- 転生復讐譚における性差
- 鳥説話の日中比較

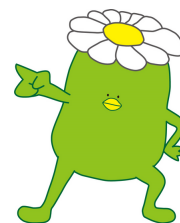


相模女子大学 学芸学部 日本語日本文学科

神奈川県相模原市南区文京2-1-1

042-742-1411（代表）

<https://sagami-nichibun.jp>



2025年度
ニチブン
学科の学びシリーズ



中国古典文学



東京国立博物館所蔵 李迪「紅白芙蓉図」
<https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/show/C0001650>

漢文だけでない、 中国古典文学を学ぶ

訓読文をしっかりと読み解く漢文の授業から、現代語訳された日本語で読みこむ中国文学の授業まで、幅広い授業を担当しています。

漢字自体は現代社会でも日常的に使用していますが、実際にはごく一部の意味で用いているに過ぎません。授業では、先人の作品を通して漢字の多様な意味を知り、豊かな発想がもたらす面白さを考え、より良い解釈を探究する為の場を提供しています。



担当教員



加納 留美子 准教授

主な科目の紹介

○ 中国古典講読Ⅰ・Ⅱ

漢文で返り点はなぜ必要なの？置き字はなぜあるの？

授業では基礎の復習からはじめ、その後実践編として纏まった分量の作品に挑戦します。

Ⅰでは諸子百家で展開される文章構成の巧みさを学び、Ⅱでは史書に記録された各種エピソードの生まれた背景をびます。



○ 伝統文化研究Ⅰ

古代～近代にかけての中国における漢字（文字）にまつわる様々なエピソード（お堅い歴史的事件から文学者の成功と失敗、幽霊やこっくりさんなどのオカルト話など）を紹介します。

前提知識を持たない人でも大歓迎！皆さんが当たり前に使っている（はずの）漢字の知られざる一面を知り、昔の人々がどれほど真剣に向き合っていたのかを学びましょう。

ゼミ生たちからの メッセージ

「中国の古典文学に興味があれば、漢文を読むのが苦手でも大丈夫。漢和辞典と睨めっこして日本語訳を考えるのは少し大変だけど、自力で訳せるとすごく楽しい。」

「漢文に苦手意識を持っていても大丈夫です！みんなで協力し合って読めるようになりますし、作品が書かれた時代にタイムスリップできるのが魅力です。」

「中国文学は日本文学とは違って、辞書を使って原文を書き下して現代語訳するという作業があって楽しいです。漢字一文字にどのような意味があるのか考えながら現代語訳を考えていくのが面白いです。」

「漢文は日本の作品と比べたり、他の漢文と比べたりと比較しやすい分野です。さらに漢文には詩や物語などたくさんのジャンルがあります。その中で自分が面白いと思った漢文の作品を研究することができます。」

「漢文のゼミでなければ、人生で読むことはなかったであろう作品と巡り会えるところが魅力です。」

「卒論のテーマがなかなか被らないので、図書館の資料を独占できます。」